

## 2. 看護師作業時間低減を目的とした内視鏡情報管理システムの活用

医療法人社団如水会 今村病院 内視鏡センター

内視鏡技師 ○馬場 仁美、平橋 知栄

看護師 小山田つるみ、服部 祐子、山口 真実、久富真奈美

看護助手 高尾 順子、末次 未佳

内視鏡センター長 橋口 一利

### 【はじめに】

当院は年間上下部内視鏡検査約7000件、内視鏡治療650件、病床数179床の急性期病院であり検査、治療件数は年々増加している。従来は検査申込書、看護記録、問診票をすべて紙ベースにて運用しており、検査準備（過去の検査履歴調査、書類準備）やコスト請求、検査結果書類確認作業に時間を要していた。2016年11月より内視鏡情報管理システム（以下NEXUS）を導入し、内視鏡所見レポートだけでなく、独自の「内視鏡指示票」を作成し効率よく安全に内視鏡検査・治療が行えるよう業務に取り組んだのでここに報告する。

### 【目的】

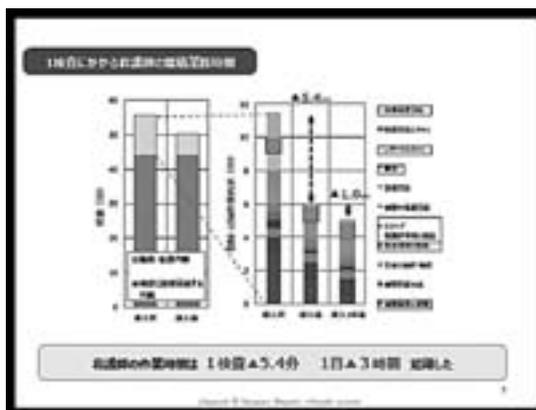
NEXUS導入前後での内視鏡検査・関連業務の変化とその効果について検討する。

### 【方法】

富士フィルムメディカル（株）と共同でシステム導入前、導入6か月後の業務の変化を①検査書類準備、②検査準備、③実施・登録・コスト請求、④洗浄履歴管理のカテゴリに分けワークフローの分析を行い評価する。

### 【結果】

1 検査にかかる看護師の累積業務時間は▲5.4分、1日平均3時間の短縮ができた(図1)



(図1)

①検査書類準備：導入前は検査予定患者の検査申込書、看護記録用紙、問診票を過去の履歴を調査し作成していたが、ID、氏名、年齢など全て手記入であり、各書類作成に時間を要していた。それら3枚を1枚の「内視鏡指示票」として集約し各患者をバーコード管理とした。「内視鏡指示票」の作成にあたり、履歴調査のルールを設定し前回検査時のみと取り決め、過去のピロリ検査結果及び除菌歴、問診票、特記事項をNEXUSへ入力し、一度NEXUSへ入力を行えば次回より履歴引用できるシステムとした。②検査準備：導入前は検査申込書へ担当看護師、スコープナンバーを手書きし、患者登録を内視鏡システムへ手入力していたが導入後はバーコード登録により看護師の作業負担が減り、患者やスコープの登録間違いのリスクが削減できた。③実施・登録・コスト請求：導入前は看護師が患者を電子カルテより選択し実施・登録・コスト請求を行い、検査申込書、看護記録、問診票を空き時間でスキャンしていたが導入後は医師が検査後に実施、登録、コスト請求、レポート入力を行うため即時性があり患者間違いの削減ができた。④洗浄履歴管理：導入前は手書きにて行っていたが、導入後は検査開始にバーコードリーダーで読み込み、洗浄時にスコープ・洗浄員情報を洗浄機設置リーダーで読み込むため検査情報と洗浄履歴が紐付けできるようになった。

#### 【結語】

今回のワークフロー分析にて時間外での看護師作業時間低減が明らかとなった。

ファイリングシステム導入により業務に対するスタッフの意識が向上し副次効果もあったと考える。今後はタブレット情報端末を用いて看護記録をリアルタイム入力することで更なる業務改善を行いたい。

NEXUSはレポート作成のみならず、内視鏡センターの統合的な運営に有用である。

【連絡先：〒841-0061 佐賀県鳥栖市轟木町1523-6 TEL：0942-82-5550】